

震災後のわが社

富士コンピュータ株式会社

所在地：福島県浪江町

福島ロボットテストフィールド

事業内容：AI介護コミュニケーションロボット

「ふくちゃん」の開発、製造、販売、
ネット通販システム「あぶくまシステム」運営



当社は兵庫県加古川市に本社を構え、1979年創業時から地域密着型のIT関連事業を展開しています。具体的にはソフトウェア開発、Web制作、IT技術者派遣、人材紹介事業、公共職業訓練事業、広域通信制・単位制高等学校運営など多岐にわたった事業展開を行っています。特に広域通信制・単位制高等学校の相生学院高校はテニスの全国大会優勝の常連校に成長しボクシングやゴルフなど輝かしい成績を収めています。

震災後、2018年に福島イノベーション構想の事業を知り、兵庫県から浜通り地域に移住した職員と地元雇用の人材をIT技術者、ロボット技術者、プログラマーに育成しながら営業しております。

福島県に進出を決意した当社代表には、福島県が第二の故郷という思いを持つエピソードがあります。父親が太平洋戦争の時に、千島列島の択捉島で震洋というモーターボートに爆弾を積み込んだ特攻船の訓練中に終戦を迎えました。そして、1機しかない水上艇で福島県の小名浜に帰着し、その後に現代表が出生されたため、福島県が第二のふるさとであり、恩返しをしたいとの強い想いがあったということです。

現在開発・製造をしているAI介護コミュニケーションロボット「ふくちゃん3号」は代表が自身の母親の介護で苦勞した経験から、特別養護老人ホーム等に入居の高齢者や居家で過ごす高齢者の話し相手として、話すことによる認知症予防や、介護者の負担軽減に寄与できないかとの思いから開発をすすめたものです。デイサービス施設、介護老人保健施設等各種介護福祉施設で可愛がられています。ある介護施設ではロビーに置いていた「ふくちゃん」が行方不明になり、探していたところ入居高齢者の個室でお話をしていました。その他、おじいちゃんから「人と話をするときは帽子くらい脱ぎなさい」とからかわれたり、歌を歌うふくちゃんに気を取られ一緒に歌を歌う利用者が多いため、介護職員の他の仕事はかどるなどの声を聞いています。

今後は施設だけでなく、個人宅でも見守りや話し相手ができる「ふくちゃん」が広く普及するように改良を重ねていきたいと考えております。

創業以来43年間、地域社会に貢献する為のビジネスを追求してきた当社にとって、当該新規事業は、震災地域経済の発展に貢献するとともに、将来を担う当社の中核ビジネスに成長させる為、挑戦する価値のある事業に出会えたと考えています。

福島県での開発は、当初兵庫県からの職員が中心で、右も左もわからない状態でありましたが、ロボット産業を応援するという、福島イノベーション構想の一環で、人材確保の雇用面、研究施設の紹介など開発支援の面、関連製造会社との連携支援など、様々な支援体制に助けられ、地元ロボット設計会社、電気基盤関連会社、樹脂部品設計製造会社、人材紹介会社、職業訓練施設と関係を持つことができ、無事「ふくちゃん3号」が完成をすることとなりました。完成後は、さらに福島県の公共施設の支援を受け、実証実験の機会を頂戴し意見収集→改良→実証のPDCAサイクルが実施できております。3年間を費やしのAI介護支援コミュニケーションロボット「ふくちゃん」を開発し、現在は営業販売をして、研究開発費の回収時期となっており、福島県産ロボットに対する購入補助金などが活用できることで支援をいただいている状態です。

2021年度より、これらの経験を生かして、さらに新たに大きな目標を設定してロボット人形「凜」として開発を進めています。

さらに、もう一つの事業として、GAFAといわれる「ITプラットフォーム」のなかでも「アマゾン」に代表されるネット通販事業の興成に着目して、アマゾンに対抗して地元の大河「阿武隈川」から命名した「あぶくまシステム」としてCtoCのeコマースの運営をはじめております。美術品を中心としたショッピングサイトとオークションサイト出品代行を手始めにアマゾンに負けないようなショッピングサイトを目指しております。当社の地元雇用職員は、まったくの未経験者から、大学でシステム系を学んだ新卒や既卒の人材、CAD経験者、など多様ですが、文系だと思っていた人が意外とプログラミング開発に優れた能力があったりということもあり、人口の少ない当地にあっても、強い興味があればチャレンジしてもらいたいと考えています。

福島県浜通りをアメリカのシリコンバレーのような先端技術の拠点となるように、地元関連企業や地元の方々と協力して創り上げたいと微力ながら頑張っていくつもりです。